

ふるさと米子 探検隊

2008年 2月 27日

第11号 見つけてみよう 石造物 の巻



編／発行 米子市立図書館 Tel0859-22-2612 Fax0859-22-2637 <http://www.yonago-toshokan.jp>

身近な地域で、江戸時代につくられた石造物を探してみよう！

身近な地域を注意ぶかく調べると、道ばたや神社、村はずれなどに、江戸時代に石でつくられたお地蔵さんや石の記念碑などが見つかります。これを石造物といいます。その数は米子市だけで、1000基ぐらいあると言われていています。これらの石造物がどうして建てられたのか、どんな言い伝えがあるのか調べてみましょう。

◎芋塚さん（芋代官碑いもだい官ひ）

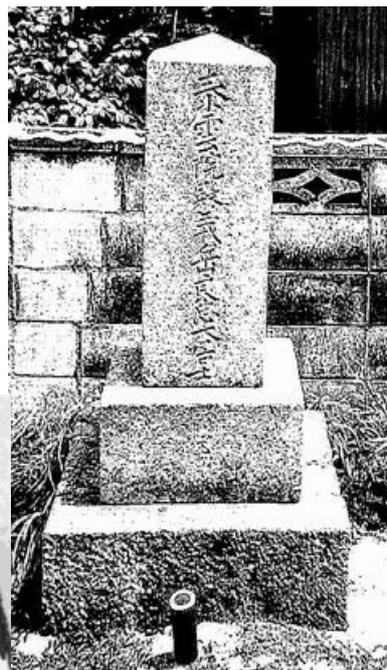
たとえば、弓ヶ浜半島には、芋塚さん（芋代官碑）とよばれる記念碑がいくつかついています。芋代官とは島根県大森銀山のお役人だった、井戸平左衛門（いどへいざえもん）のことです。井戸平左衛門は、ききんに強いサツマイモをはじめ山陰地方へ取りよせたと伝えられる人物でした。ききんが広まったのをきっかけに、井戸平左衛門を思いだし、こうした記念碑が建てられたのです。

①和田、観音堂の芋代官碑

これは、1832年につくられた、鳥取県でもっとも古い芋代官碑で、米子市の文化財に指定されています。



井戸平左衛門



和田の芋塚さん

探検隊の参考資料

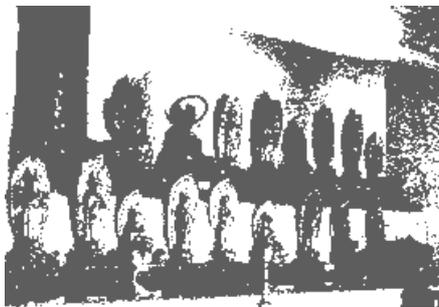
- 「新米子の文化財」米子市教育委員会／編・発行 2006 Y70/Y5-2
- 「新修米子市史 第5巻(民俗編)」米子市史編さん協議会／編 米子市 2000 Y224/Y19
- 「石仏調査ハンドブック」庚申懇話会／共著 雄山閣出版 1993 718/コ
- 「日本石仏事典」庚申懇話会／編雄山閣出版 1995 R718/ニホ

○力士塚（江戸時代のお相撲さんの記念碑）

江戸時代は、どの地方でも相撲がさかんに行われました。中でも強いお相撲(すもう)さんは記念碑や特別なお墓がつけられました。これを力士塚(りきしづか)とよびます。とても強かったからでしょうか、お話が伝わっているお相撲さんもありました。

②「松尾山文四郎」の力士塚

この力士塚は、1818年につくられたもので、上福原の観音堂の前にあります。この観音堂には西国三十三ヶ所のお寺からもらってきた三十三体の観音さまがまつられています。この観音さまをもらってきたのが、松尾山文四郎です。H家では、この時の話が語り伝えられています。



松尾山文四郎・力士塚

相撲とりの松尾山文四郎が、観音さまをもらうため峠を通りました。すると関所のお役人が「そこを通る者は何者か」とたずねます。これに対して、松尾山文四郎はうちわのような両手をあげて、馬からおりずに「会見郡、松尾山文四郎を知らないか」と答えました。すると役人は「お通りなされい」といって手形（通行許可証）なしで通しました。（以下略）



人気力士の雷電為衛門
(勝川春亭画・コモンズより)

③「平石七太夫」(ひらいししちだゆう)と「山嵐源吾」(やまおろしげんご)の力士塚

和田には、2つの力士塚があります。大関だった平石七太夫の力士塚は、1809年のお墓です。そのいところで関脇の山嵐源吾の力士塚は1813年のお墓です。2人とも米子市和田の出身で、次のような言い伝えがのこっています。

山嵐源吾は、当時最強といわれる雷電為右衛門と対戦することになり、いとこの平石七太夫に相談し、何度も仕切り直しを続ける作戦にでました。仕切り直しの48回目に、雷電の右足がけいれんするのを見て、山嵐は立ち、雷電に勝ったそうです。

○廻国塔（日本各地の寺社をたずね歩いた旅人の記念碑）

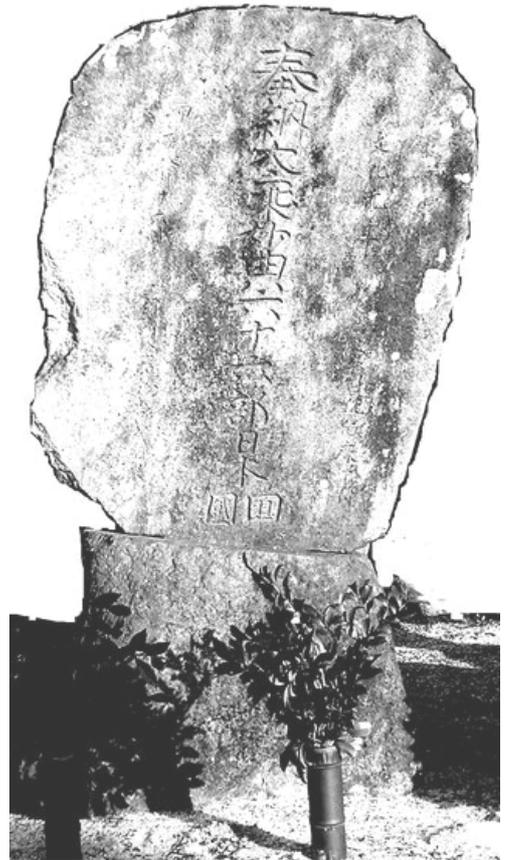
江戸時代には、お経を66部書き写し、それを日本各地の有名なお寺や神社におさめてまわる信仰がありました。この旅のことを廻国（または回国）といい、旅人を六部(ろくぶ)とか回国行者(かいこくぎょうじゃ)とよびます。この廻国を記念してつくられたものが廻国塔(かいこくとう)です。

④赤井手(あかいで)の廻国塔(かいこくとう)

赤井手の村はずれに廻国塔があります。石の文字をよくみると、「尾高村赤松屋喜兵衛」(おだかむら・あかまつやきへい)という人が、1805年から1810年までの6年間をかけて、廻国を行ったことがわかります。

⑤尾高(石田)の廻国塔、⑥中間(なかま)の廻国塔

⑤は1737年、尾高(石田)の集落内にあります。奥州(おうしゅう)岩崎郡塩田村(福島県いわき市)の「大石理左衛門」(おおいしりざえもん)という人が、廻国の途中、この土地に立ちよったさい、さびしく死んでしまったのだそうです。そこで、尾高の村人が大切にとむらい、廻国塔をたてました。右写真の⑥は1804年、淀江町中間につくられたものです。豊後国(ぶんごのくに)佐伯床木村(大分県佐伯市おおいたけんさえきし)の行者である全指(ぜんし)という人物が、廻国の途中でなくなったため、村人が廻国塔をたてました



中間の廻国塔



廻国は④の旅のように6年間もかかる大仕事でした。また⑤・⑥のように遠くから米子市にやって来た六部もいます。江戸時代の人々は、こうした旅人をあたたかくむかえ、宿をかしたり、食事をふるまってあげることもありました。このような人びとに支えられ、貧しい人びとや女性でも廻国など信仰の旅に出かけることができたようです。現在米子市内には、20基以上の廻国塔がみつかっており、廻国がさかんだったことを示しています。

○いろいろな野の仏さま（石仏）

道ばたに、石でつくられた仏さまが見つかることもあります。この石仏にもいろいろな種類があり、つくった人びとのいろいろな思いがこめられているのです。

⑦淀江町の境目地蔵と馬頭観音

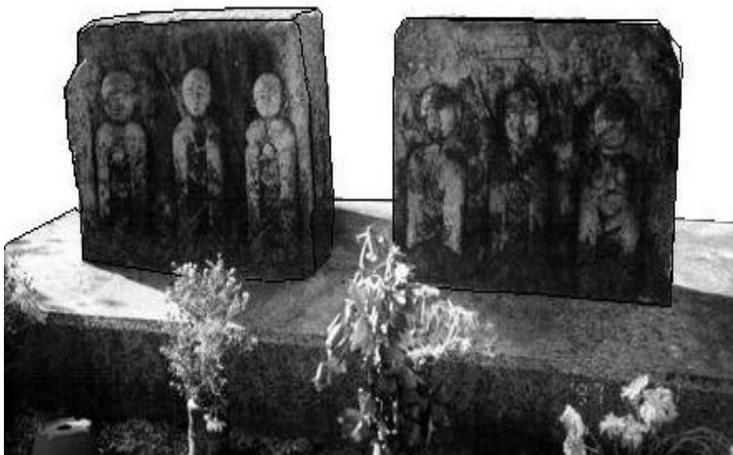
右の写真の2体の仏像は、淀江町の旧道にたっています。このうち、大きい方の「境目地蔵」（さかいめじぞう）という仏像は、1836年につくられました。そのころ、ここは郡の境界でした。境界をはさむ汗入郡（あせりぐん）の淀江村と会見郡（あいみぐん）の小波村が、共同でつくり、「境目地蔵」とよばれているのです。また小さい方の「馬頭観音」（ばとうかんのん）という仏像は、頭に馬の頭をいただいた観音さまです。1848年に、淀江村の馬方（うまかた・馬に荷物をのせて運ぶ仕事をする人びと）がたてたものです。交通安全の願いをこめたものでしょうか。



境目地蔵と馬頭観音

⑧吉岡の一石三十三観音

これは吉岡村全体で、1849年につくったものです。1つの石に西国三十三番の観音さまが浮き彫りでえがかれています。西国三十三番の観音さまというのは、近畿地方を中心とした、三十三ヶ所のお寺にある有名な観音さまのことです。ここにくれば、旅行に行かなくても、三十三ヶ所の観音さまをおがむことができます。



八幡の六地蔵

⑨八幡の六地蔵

墓地の入り口などでよく見かけますが、六体のお地蔵さんをならべて、おまつりしたものが、六地蔵です。写真の八幡の六地蔵さんは1つの石に、三体のお地蔵さんが彫（ほ）られ、その石が2つあって、合計で六体となっています。1808年につくられたものです。

いろいろな石造物 (その1)

○句 碑(くひ)・・・句碑は、俳句のかかれた記念碑です。

⑩感応寺の芭蕉句碑 (祇園町ぎおんちょうの感応寺かんのうじ境内にあります) 有名な松尾芭蕉(まつおばしょう)がなくなって100年後、1973年に芭蕉をなつかしんでつくられたものです。正面には「ものいへば 唇寒し 秋の風」という俳句がかかれており、このあたりでも俳句がさかんだったことがわかります。

○道 標(みちしるべ)・・・道標は、江戸時代の道路標識です。

⑪尾高の道標

右の写真は1858年に建てられた道標です。右へいけば大山へ、左に行けば因幡(鳥取方面)へと、行き先を示しています。



尾高の道標

○元祖(がんそ)の塔 (村を開いた人のお墓)

江戸時代に、弓ヶ浜半島が開発され、大勢の人びとが移り住み、新しい村をつくりました。このとき、新しい村を開いた人物を元祖といいます。この人たちのお墓は、村を開いたという記念の塔でもあるので、元祖塔といっています。

⑫三柳(みつやなぎ)の元祖塔

これは1712年のもので、三柳村をひらいた高木作左衛門夫婦のお墓であるとかかれています。高木家の記録によると、出雲(島根県)からこの地に移り住んだのだそうです。

○サイノカミ

サイノカミさんは神社や村ざかいにあって、村に入ろうとするわざわいを防いでくれる神さまです。米子市の日野川から東がわでは、男女の2人の神さまがえがかれたものが多く、全国的に有名です。縁結びの神さまとして信仰され、サイノカミさんのお祭りには、わらでつくられた馬がおそなえされます。



⑬亀甲(かめのこう)神社のサイノカミ

淀江町の亀甲神社には、9体のサイノカミさんがあり、古くは1816年につくられたものもありますが、中にはつい最近のものもあります。米子市の文化財に指定されています。



亀甲神社のサイノカミ

いろいろな石造物 (その2)

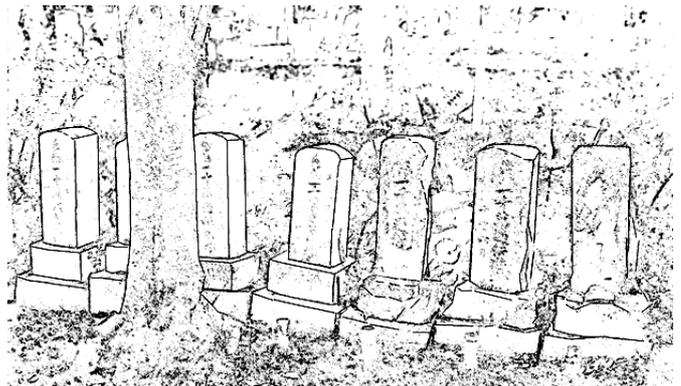
○百万遍の供養塔

百万遍(ひゃくまんべん)という行事があります。数珠繰り(ずじゅぐり)ともいい、大きな数珠をみんなで輪になって、念仏を唱えながらまわすものです。これを記念してできたものが百万遍供養塔です。



⑭葭津(よしづ)、任宗寺の一千万遍供養塔

百万遍の行事を10年続けたら、一千万遍になります。10年続けたという記念につくられたのが、この一千万遍供養塔で、1793年から10年ごとに6基の石塔がつくられます。この行事が60年以上続いた証拠です。



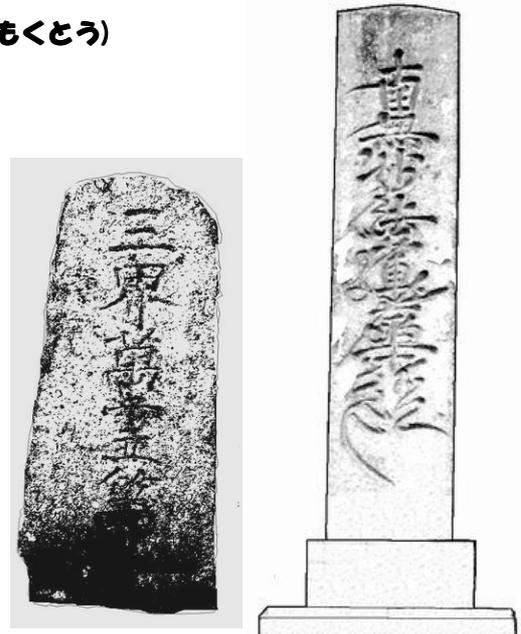
○三界万霊塔(さんかいばんれいとう)と題目塔(だいもくとう)

⑮大谷の題目塔

これは1719年にたてられました。「南無妙法蓮華経」(なむみょうほうれんげきょう)という題目がかかれています。

⑯日下(くさか)の三界万霊塔

これは1711年に建てられたものです。三界万霊塔は、この世に存在するすべての霊をなくさめる目的で建てられました。墓地などで多く見かけます。



○その他の石造物

これらのほか、神社やお寺にある「鳥居」(とりい)や「狛犬」(こまいぬ)、「手水鉢」(ちょうずばち)、「石段」、「灯籠」なども石造物です。

⑰青木神社の狛犬

これは青木神社の狛犬で、1815年につくられました。狛犬とは、犬に似た想像上のもので、ふつう右左に1つずつあり、片方は口を開き、片方は口をとじています。



⑱彦名、粟嶋神社の大灯籠

1849年につくられたもので、闇夜を照らすという意味の「常夜灯」(じょうやとう)とかかれています。3メートル以上もある大きな灯籠なので、大勢の人物がこの建設に力をつくしたようです。灯籠の台には「願主」(がんしゅ)とあり大勢の名前が書かれています。

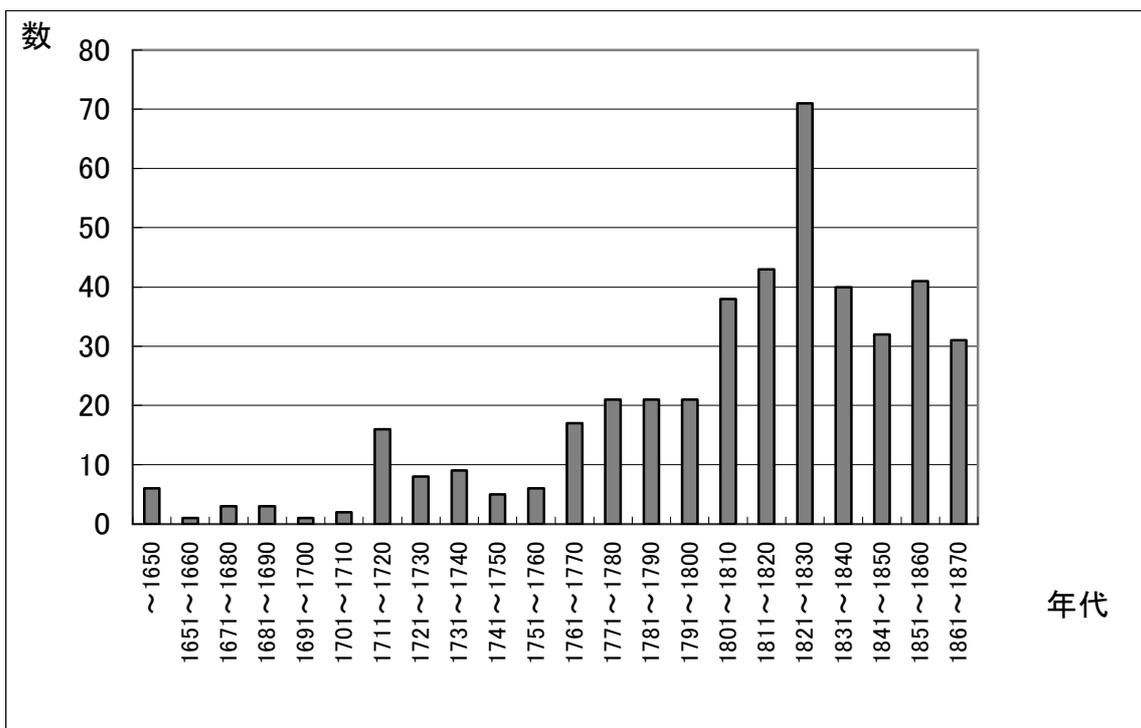
灯籠は、江戸時代にもっとも多くつくられた石造物で、米子市のあちこちで見かけることができます。



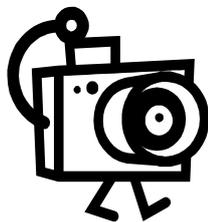
粟島神社 大灯籠

石造物がつくられたのはいつだろう

石造物が多くつくられたのは、江戸時代のいつごろでしょうか。下のグラフは、436の石造物を10年ごとに分けて、つくられた時期をあらわしたものです。これをみると、1821年から1830年の間がとびぬけて多いことが分かります。実はこれは米子市周辺の特徴です。比べてみると、鳥取市周辺は別の特色があります。同じ鳥取県でも、地域によってちがいがあるのです。



石造物をさがしに出かけよう



家や学校の近くに石造物をさがしに行きましょう。石造物を見つけたら、よく観察して、写真をとったり、スケッチをしてみましよう。また書いてある文字をおとなの人によんでもらい、メモをしてみましよう。帰ってから、石造物に書いてあることがらを調べてみましよう。

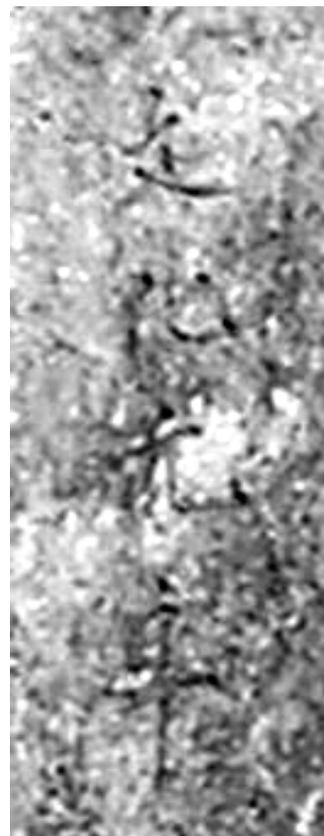
◎調査のヒント

実は石造物には、「1820年」などという西暦(せいれき)は使われていません。「平成」とか「昭和」というような元号(げんごう)が使われています。石造物にかかっている元号をみて、つくられた時期を調べましよう。右は⑥の廻国塔にかかっていた元号です。

「文化元年」(ぶんかがんねん)とかがかかっています。

「元年」とははじめの年という意味で、「文化」という元号の1年目ということです。事典で調べてみると、「文化」は1804年から始まっているので、⑥の廻国塔は1804年につくられたことが分かります。

米子市に多く見られる、江戸時代の石造物の年代には、
享和(きょうわ)1801年～・ 文化(ぶんか)1804年～
文政(ぶんせい)1818年～・ 天保(てんぼう)1830年～
弘化(こうか)1844年～・ 嘉永(かえい)1848年～
安政(あんせい)1854年～・ 万延(まんえん)1860年～
文久(ぶんきゅう)1861年～・ 元治(げんじ)1864年～
慶応(けいおう)1865年～ などがあります。



**いつごろ／だれが／何のために 石造物を建てたのか？
おもしろい探検にみんなも挑戦(ちょうせん)してみよう!!**